

平成23年の中国地方の梅雨入りと梅雨明けの時期について

気象庁が梅雨時期に行う梅雨の入り・明けの発表は、当日までの天候経過と向こう1週間程度の天候の予想に基づくものです。気象庁では、毎年、梅雨時期の終了後に、実際の天候経過に基づいて事後検討を行い、各地の梅雨時期の確定及び特徴のまとめを行っています。今般、広島地方気象台は平成23年の中国地方の梅雨についてとりまとめましたのでお知らせします。

中国地方の梅雨入りと梅雨明けの時期とその特徴及び梅雨の時期(6~7月)の各気象官署と特別地域気象観測所の降水量は以下のとおりです。

【梅雨入り】

5月21日ごろ(当初発表5月26日ごろ)

「かなり早い」

- ・ 平年(6月7日ごろ)より17日早い
- ・ 昨年(6月13日ごろ)より23日早い

【梅雨明け】

7月8日ごろ(当初発表どおり)

「かなり早い」

- ・ 平年(7月21日ごろ)より13日早い
- ・ 昨年(7月17日ごろ)より9日早い

平成23年の梅雨時期(6~7月)の
降水量と平年比

地点名	観測値 (mm)	平年値 (mm)	平年比(%) (階級)
広島	362.5	505.6	72(一)
呉	331.0	454.3	73(一)
福山	352.5	352.0	100(0)
岡山	306.5	332.4	92(0)
津山	308.0	443.3	69(一)
松江	379.5	442.2	86(0)
西郷	153.0	391.4	39(=)
浜田	270.0	473.8	57(一)
鳥取	288.5	353.0	82(一)
米子	305.0	421.2	72(一)
境	279.5	414.2	67(一)

階級は(=):かなり少ない、(一):少ない、(0):平年並
(+):多い、(++):かなり多いを示す

◎中国地方の梅雨時期の特徴

梅雨入り、梅雨明けともに平年に比べかなり早かった。

5月下旬ごろに太平洋高気圧が一時的に強まった影響で、梅雨前線の北上が見られ5月21日ごろ梅雨入りとなった。また、5月下旬は台風に伴う湿った気流の影響もあって降水量がかなり多かった。

6月から7月はじめにかけては、6月はじめごろを中心に晴れた日が多くなったものの梅雨前線が西日本付近に位置しやすく、前線の影響を受け曇りや雨の日が多くなった。7月上旬終わりから中旬にかけて太平洋高気圧が強まり、梅雨前線は日本海に北上し晴れて暑い日が多くなった。梅雨前線が日本海に北上した7月8日ごろ梅雨明けとなった。

梅雨の時期(6~7月)の降水量は、梅雨明けがかなり早かったこともあり少なかった。日照時間は6月は少なく、7月は平年並、気温は6月、7月ともに高かった。

(注1)今年の日付は事後検討により確定したものです。梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「* * 日ごろ」と表現しています。

(注2)梅雨の期間は年によって入り、明けの日が異なり、長い期間もあれば短い期間もあります。このため梅雨の降水量を比較する場合には梅雨の時期とした6~7月(沖縄、奄美は5~6月)の降水量を用いています。